

科目コード	科目名	単位数
0811	商学総論	4単位

教材コード 000356

教材名 商学総論

著者名等 佐藤 稔

■教材の概要

商学に関する諸問題は経済システムを生産、流通、消費の三段階に明確に分立し、商品の社会的移転現象としての流通、有機的連環に関するものとして成立するものである。

本書は、現代の複雑な市場経済組織の成立に重要不可欠な経済事情である商業を主として社会的立場から考究し、従前商業を他産業と比較して劣位においた蔑視感を払拭して研究上重要な地位を占めるに至った社会的意義、流通経済での打開すべき方向、商品流通のあり方について理解する。

■学習計画のポイント

ページ1～187

この単位では、過去および現代の商業学説を通覧して商業の概念規定のあり方、欧米ならびに我国の商学の発達を通して現代における商学の性格など基本的問題について理解する。さらに、市場経済の発生・成立によって招来した生産消費の経済的隔離の再統一機能として理解される流通の機能について、諸学者の流通機能分析の展開に史的に概観し現代における流通機能の意義と機能分類について理解する。

ページ191～544

この単位では現代の経済社会における商品流通が生産者と消費者との間に様々な流通機関を介在させ、相互間に固定的・常駐的關係を持ち、生産・消費の統一が遂行されている仕組みを理解し、流通機構の社会経済的存在意義を理解する。さらに、生産消費の社会的分離の発生とその増大により必然的に随伴する諸隔離を統一する助成的機能すなわち金融、輸送、保管、保険などの役割を理解し、人格的統一機能の遂行に随伴する諸機能、諸機関の重要性について理解する。

■学習上の留意点

商学の具体的・専門的諸問題については各々の専門科目で学びますが、総論は専門科目への入口に相当します。商学の全体像を把握することに努めてください。

■参考文献

本書内の注及び参考文献などを利用してください。

科目コード	科目名	単位数
0821	商品学	4単位

教材コード 000401

教材名 『現代商品論』

著者名等 見目 洋子・神原 理 編著

■教材の概要

今日の経済活動は商品中心に営まれている。その商品を研究する商品学は万人にとって必須の科学といえる。本教材は現代の市場活動の変化に着目し、そこにおける市場活動や商品の課題、また消費の問題を社会的課題と認識して、新たな商品研究のあり方を論じている「商品は生きもの」といわれる。商品は時代と共に質、量、種類に於いて日々更新されるため、これを新聞、雑誌などで補完して頂きたい。

■学習計画のポイント

ページ 7 ～ 97

7～39 ページ

商品研究を行う上で重要な商品の概念、商品の品質と価格、商品研究の史的変遷について述べている。

41～97 ページ

標準化、デザインとパッケージが商品価値をどう変えるか、経済のサービス化が進展していくなかでの商品としてのサービスについて説明しているか。

ページ 99 ～ 199

99～145 ページ

市場環境の変化のなかで商品と市場の安全性、ライフスタイルと消費行動がいかなる関係にあるか、商品の差別化を促すブランドについて述べている。

147～199 ページ

21世紀は環境の世紀といわれ、商品と環境、少子高齢化における商品、商品と社会の関わりについて考察している。

■学習上の留意点

新聞の切り抜きは商品研究の一番の初歩的研究の一方法である。毎年発行されている「日本国勢図会」は商品の統計と現状について解説しているので一読に値する。学生とは「主体的に学ぶ者」であることを自覚すること。「教えるとは共に希望を語ること、学ぶとは真理（生きること）を胸に刻むこと」。

■参考文献

『商品学読本（第2版）』水野良象著（東洋経済新報社）

『商品学と商品戦略』（KGU叢書）石持悦史著（白桃書房）

科目コード	科目名	単位数
0822	貿易論	4 単位

教材コード 000439

教材名 貿易論

著者名等 松原 聖・飯野 文

■教材の概要

本書は2部構成であり、第1部は主に国際経済学の視観点から、第2部は主に国際経済法の視点から貿易論を捉えている。第1部では、日本の最近の貿易構造、貿易理論、保護主義、貿易実務、国際収支表、外国為替市場・為替レート、海外直接投資を扱っている。第2部では、世界貿易の動向と国際貿易体制(GATT・WTO体制)、WTOが規律する物品及びサービスに関わる貿易ルール、地域経済統合、貿易紛争処理、投資紛争処理を取り上げている。

■学習計画のポイント

ページ1～127

第1部では、日本の対外取引の現状やそれを説明する理論、そして貿易実務の基礎などを、(数値)例などと合わせて一つずつ理解することがポイントである。各章については以下の通り。第1章では日本の主な貿易相手国・地域や主に取引されるモノを理解してもらいたい。第2章・第3章で扱う貿易理論については、主な結果を(日本)経済の実例と合わせて理解してほしい。第4章の保護主義の議論についても同様である。第5章は貿易実務入門であり、図表5-1を中心に全体的な「流れ」を押さえてほしい。第6章は国際収支の個々の項目についての日本の現状と共に、経常収支に関する諸議論を日本経済・世界経済の課題と合わせて理解してほしい。第7章では前半の外国為替市場については数値例を、後半の為替レートの日本経済への影響については第4章の保護主義に関する議論との類似性を理解することに努めてほしい。第8章の海外直接投資の議論については、日本の製造業の現状と合わせて考えると理解しやすい。

ページ129～353

第2部では、現在の世界貿易がどのような貿易ルールに基づいて規律され、秩序づけられているのかを歴史的経緯も併せて理解することがポイントである。各章については次の通り。第1章では、世界貿易の動向とWTO(世界貿易機関)の成立経緯と現状、第2章では、WTOの仕組みと貿易政策の諸手段を理解してほしい。第3～6章で論じる貿易ルールについては、各章で解説する個別ルールについて学習を深めると同時に、個別ルールを全体像に位置付けて把握することが望ましい。すなわち、貿易ルールの基本原則とその例外、貿易自由化と貿易救済措置の関係、関税や数量制限などの水際規制と国内規制の相違、鉱工業品貿易と農業貿易の規律の相違とその背景、物品貿易とサービス貿易の規律の相違とその背景を横断的に理解することが重要である。第7章で扱う地域経済統合は近年、世界的関心が高い分野であり、特に経済統合の基本的概念、WTOの基本原則との関係をしっかりと把握してほしい。第8章では貿易・投資紛争の仕組みと両者の相違を理解することが求められる。

■学習上の留意点

第1部、第2部を通じて、貿易が(日本)国内の個人や企業とどのようにかかわっているのかという視点を持ちながら学習することが重要である。インターネットなどを活用しながら、各章の内容の具体例を知りながら学習することにより、個々の説明について理解を深めることができる。参考文献や日々の新聞記事等を参考にして、経済にとって貿易がいかに重要であるのかを学んでほしい。

■参考文献

- 『日経文庫ベーシック 貿易入門(第3版)』久保広正著(日本経済新聞社)
- 『入門 国際経済』中北徹著(ダイヤモンド社)
- 『WTO入門』UFJ総合研究所新戦略部通商政策ユニット編(日本評論社)

科目コード	科目名	単位数
0823	マーケティング	4単位

教材コード 000182

教材名 マーケティング

著者名等 長谷 政弘・佐藤 稔

■教材の概要

本書は、マーケティングが体系的に学べるように、総論と各論からなっている。総論（第1章～第4章）では、マーケティングの全体的な考え方・進め方・あり方について説明されている。

この理解を前提にして、各論（第6章～第16章）のマーケティング環境とマーケティング手段に進めるように構成されている。主としてメーカーの立場から論ぜられているが、流通業のマーケティングにも紙幅を割いている。本書では、各章ごとの最初に学習のポイントが書かれている。

■学習計画のポイント

ページ7～182

7～67ページ

今日いわれるところのマーケティングは、マネジリアル・マーケティング（経営者マーケティング）であり、その理解のもとに、非営利組織のマーケティングや社会志向的なマーケティングなどのニュー・マーケティングについて考察する。

69～182ページ

マーケティングは、マーケティング環境とマーケティング・ミックスの相互関連のもとに、マーケティング意志決定を行うので、環境要因を検討し、かつミックスの構成要素である製品計画、仕入計画（流通業）をまず考える。その前提である、マーケティング情報も学ぶ。

ページ183～347

183～271ページ

マーケティング・ミックスの構成要素である価格決定、販売経路設定、店舗計画、広告について説明されている。この中の店舗計画は、流通業、特に小売業にとって重要な手段である。

273～347ページ

マーケティング・ミックスの構成要素である販売員活動、販売促進、ディスプレイ（小売業）、物的流通について述べられている。販売員活動と販売促進は、第3単位にある広告とともに、プロモーション活動を構成している。

■学習上の留意点

- ① 細かい問題ではなく、大きな問題を出す。
- ② 重要事項をよく整理する。
- ③ 各章の初めにある学習のポイントに注意する。
- ④ 偏った勉強はしないようにする。

■参考文献

- 『マーケティング管理（新版）』久保村隆裕・阿部周造共著（千倉書房）
 ※『ソーシャル・マーケティング』三上富三郎著（同文館）
 ※『マーケティング・マネジメント』P.コトラー著・小坂他訳（プレジデント社）

科目コード	科目名	単位数
0825	保険総論	4単位

教材コード 000183

教材名 保険総論

著者名等 根立 昭治

■教材の概要

本書は、日本経済と各種保険制度の発達という観点から、現代社会の各種保険制度の本質・機能と各々の内容および問題点を容易に理解できるように解説し、実生活の便益に供しようとするものである。まず、人類社会と保険制度の発達との関係のみを、現代社会の保険制度の意義をとらえ、保険発達史を考察している。次に、受講生諸氏が現在または将来利用し、またはするであろう各種保険制度の内容と問題点および新保険業法による保険企業の経営問題を解説したものである。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 37

(第一編)

第1章の各々の社会発展段階における保険制度の役割を理解した上で、第2章の最も保険制度が発達している現代社会の保険制度の意義を理解してほしい。とくに保険企業における金融機能の意義については十分に理解してほしいものである。そして、第3章の現代社会における保険制度の異常な発達の意味を考えてほしいものである。

ページ 41 ～ 163

(第二編)

第1章は、私達が現在もっとも利用している火災・自動車・傷害・責任保険などの内容と問題点を理解するとともに損害保険の積立・総合保険代および生命保険分野への進出などの今月的問題なども考えてほしいものである。

第2章の生命保険の各種類の内容点を理解しつつ実生活に活用できるように努めてほしいことと、生保企業の金融機能についても第2章の内容とあわせて理解してほしいものである。次いで、第3章の社会保険は、受講生諸氏も殆ど利用するものであるから制度内容の理解はもちろんのこと、各々の問題点も自分の問題として考えてほしい。

保険企業の保障機能と金融きのを遂行するための経営問題を考察した第4章であるが、新保険業法によって生・損保企業とも種々の影響を受けるので、そうした新しい経営問題についても理解を深めてほしい。

■学習上の留意点

- ① とにかく本書をよく読んでほしいこと。
- ② この科目は実学そのものに近いので、新聞はじめ各種のマス・メディアの保険関連の情報に充分注意してほしい。
- ③ 保険特有の専門用語があるので「保険辞典」等で調べてほしい。

■参考文献

この点については、本書の各章の終りにある〈注〉欄にある参考文献・資料を受講生諸氏の必要に応じて利用してもらうのが最もよいと思われる。さらに、新しい保険事業の動向を加筆した拙著※「保険論（改訂第2版）」（桜門書房）を参考にしてほしいものである。

科目コード	科目名	単位数
0827	交通論	4単位

教材コード 000184

教材名 交通論

著者名等 山上 徹

■教材の概要

「交通論」の主要な研究領域とは、人・物・情報の場所的移動をいかにして経済的に克服するかにある。

本書では、交通の基礎的な理論をはじめ、歴史的な発達状況、さらに現代的な諸問題について論じるものである。とくに交通手段には、陸海空の多様な交通手段が存在しており、それぞれ機能上、長所・短所を論じ、またそれぞれ相互依存しながら「場所的距離の移転」という交通サービスに関する基本的な内容について論じるものである。

■学習計画のポイント

ページ1～134

本編では、各種の交通手段が基本的にどのような役割を担っているか、またどのようにして発達してきたのか、われわれに交通手段がどのような影響を与えているかなどについて論じるものである。具体的には、交通手段、陸海空の基本的な特徴、発達史、影響、水上交通の概要、とくに運賃、船積み手続き、保険などについて論じるものである。

ページ137～253

場所的距離の移転の発達は、しだいに国境を越えた活動が一般化してきており、国際航空輸送、国際海上輸送という国際交通が重要であり、本編では、それらを中心に論じる。

人の移動に関しては、観光・旅行による場所的移動があるが、旅行業者の業務内容などを論じ、また物流については、国際複合輸送の特徴などについて考察するものである。

■学習上の留意点

- ① 場所的距離の移転という特殊な活動が交通手段によって実現されることを理解すること。
- ② 各種の交通手段の機能上の特質を理解すること。
- ③ 国際交通の役割について理解すること。
- ④ コンテナ輸送について理解すること。

■参考文献

- ※『国際物流のネットワークと港』山上徹著（白桃書房）
- ※『現代航空経済概論』山上徹監訳（成山堂書房）
- ※『交通経済学講義』岡野行秀編著（青林書院）
- ※『現代流通総論』山上徹著（白桃書房）

科目コード	科目名	単位数
0829	証券市場論	4単位

教材コード 000185

教材名 証券市場論

著者名等 西條 信弘・安井 昭・高嶋 勝平・佐藤 猛

■教材の概要

本教材は証券市場に関わる全体像を容易に理解するために構成されている。第Ⅰ部は証券市場総論、第Ⅱ部は資金調達論、第Ⅲ部は証券投資論、第Ⅳ部は国際証券市場論となっており、各部ごとに完結された部であるため、どこから読んでもよいと思われる。ただし、第Ⅱ部、第Ⅲ部は自分の鉛筆で計算すると更に理解が容易となろう。なお、証券市場の特殊な用語については、証券用語事典を利用することをお勧めする。

■学習計画のポイント

ページ1～117

証券市場の史的観点からのシステムの変遷が詳細に且つ体系的に述べられている。細部は無視して大きなシステムの流れを体系的に理解することが重要であろう。また、資金調達論については、特に数学的な知識は必要としないが、ファイナンスの基礎理論が体系的に述べられているので、一つ一つモデルを確認して、覚えるのではなく理解することに努めてほしい。

ページ119～191

証券投資論として、主としてデリバティブ（派生取引）が中心に述べられている。ポートフォリオ、先物取引、オプション取引、スワップ取引の内容を正確に理解してほしい。国際証券市場論は、第Ⅰ部から第Ⅳ部までの知識に立脚して、日本市場が国際的な循環の中にあるという認識で読むと理解しやすいであろう。国際的な経済感覚を磨いてほしい。

■学習上の留意点

余り細部のテクニカルな用語については気にしないで体系的な視点で教材を読むと理解しやすいであろう。大学の証券市場の教材としては、標準的な水準である。

■参考文献

証券システム関係…『新・証券論 25 講（改訂版）』杉江，神木，坂下編著（晃洋書房）
資金調達・投資論…『入門証券市場論（第3版）』（有斐閣ブックス）釜江廣志編（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
0830	広告論	4単位

教材コード 000481

教材名 広告論

著者名等 樋口 紀男

■教材の概要

本教材は、「序論」「1. 広告とは何か」「2. 広告コミュニケーションとは何か」「3. 広告の機能と影響」「4. 広告戦略の立案」「5. 表現戦略」「6. 媒体戦略」「7. 広告効果」「8. 広告ビジネス」「9. 広告規制」「10. 広告コミュニケーションの可能性」「11. マーケティング・コミュニケーション」「12. 統合型マーケティング・コミュニケーション」「13. ブランド・コミュニケーション」「14. グローバル・コミュニケーション」「15. インターネット・コミュニケーション」「16. マーケティング・コミュニケーションの価値創造」「17. 総括：わが国の戦後のマーケティングとメタ・マーケティングへの視座」からなっている。

■学習計画のポイント

1章～10章

伝統的な広告論を中心に展開する。ここでは、「広告とは何か」ということから広告戦略、広告効果、広告規制といった実際の広告活動の基本を学ぶと同時に、伝統的な広告を批判的に解釈していく。

11章～17章

マーケティング・コミュニケーションについて展開する。ここでは、マーケティングがコミュニケーションによって作動するという現実を立て、マーケティングにおけるコミュニケーションの問題を学習することを目指す。

■学習上の留意点

広告の問題・論点を経済的・社会的の視点から見ていくので、範囲が広がるためさまざまな言葉や概念が出てくるので、マーケティングや社会学、コミュニケーション論等々との関連を考えるようにすること。また、辞書・事典類に目を通して言葉の意味をしっかりと理解するようにすること。

■参考文献

- 広告論：『わかりやすい広告論』石崎徹編著（八千代出版）
 マーケティング論：『わかりやすいマーケティング』沼上幹（有斐閣）
 コミュニケーション関係：『記号論への招待』池上嘉彦（岩波新書）

科目コード	科目名	単位数
0831	商業政策	4単位

教材コード 000187

教材名 商業政策

著者名等 梅沢 昌太郎

■教材の概要

科目名は「商業政策」であるが、「流通政策」と読み替えて教材が作成されている。この教材では流通論をマクロのマーケティングつまり流通政策とし、事業経営からの戦略をマイクロ・マーケティングと位置づけている。そのマクロとマイクロのジレンマと統合から、戦略と政策のあり方を考察している。さらに流通政策固有の問題として、政策決定のプロセスを考察し、地域づくりとの関連を考察している。また、政策と戦略の計画を作成するためのデータの扱い方も学ぶ。

■学習計画のポイント

ページ1～115

- ① マーケティングにおける管理不能変数と管理可能変数。
- ② 消費者・生活者のニーズと流通政策。
- ③ 4Pという変数。
- ④ マイクロ・マーケティングにおける流通の位置づけ。
- ⑤ マクロのマーケティングとしての流通論。
- ⑥ 流通と環境問題。
- ⑦ 流通の機能とコンセプトの変化。
- ⑧ 小売業態の変化と流通政策。
- ⑨ サービスの役割の増大と流通の政策と戦略。
- ⑩ 流通変革と卸売業。

ページ117～351

- ① 物流における規制緩和と物流コンセプトの変化。
- ② 消費者物流のもつ意味。
- ③ 情報流通の変革の意味と流通システムへの影響。
- ④ 情報システムと双方向コミュニケーション。
- ⑤ 電子商取引への展開。
- ⑥ ブランドの価値とコンフリクト。
- ⑦ サービスへの展開と地域づくりへの展開。
- ⑧ 流通政策の決定プロセスと政府の失敗。
- ⑨ 流通政策の今後の方向。
- ⑩ 計量的分析の方法。

■学習上の留意点

- ① マーケティング論との関連に留意してください。
- ② 流通を自分自身の問題としてとらえ、生活者の視点から政策と戦略を考えてください。
- ③ 好奇心を持って街をながめ、新聞をよく読んでください。
- ④ 自分なりの論を形成する努力をしてください。

■参考文献

- ※『マーケティングのしくみ』梅沢昌太郎 ビッグペン共著（ダイヤモンド社）
- ※『マーケティングの基本知識』片山又一郎著（PHP 出版）
- ※『流通サービス産業の経営論』梅沢昌太郎著（白桃書房）
- 『消費者サービスと地元経済開発』コリン・ウィリアムズ著、梅沢昌太郎監訳（白桃書房）

科目コード	科目名	単位数
0833	国際金融論	4単位

教材コード 000432

教材名 国際金融論

著者名等 宅和 公志・山倉 和紀

■教材の概要

教材では、普段ひとりで学習をすすめなければならない通信教育部生が国際金融に関する基礎知識を一通り習得できるように配慮しつつも、いま国際金融の世界で起きている新しい動きや変化についても学習できるように一定の配慮をした。国際金融の世界で起きていることは、内外の金融市場の一体化であり、金融現象の世界化である。それに伴い、もはや金融の世界では国境なるものは大きな意味をもたなくなってきた。つまり金融の世界は、シームレス（国境なし）のグローバルな領域になりつつあり、インターナショナルな（国と国との狭間の）領域は失われつつある。教材はそうした現状認識のもとに書かれている。なお教材の構成は大きく分けて、第1編（1～4章）基礎的な概念や仕組み、第2編（5～6章）理論やモデル、第3編（7～9章）国際通貨制度の歴史、そして第4編（10～12章）国際金融市場とその他諸問題、からなっている。

■学習計画のポイント

ページ 1～142

第1～4章は、為替取引、為替レート、国際収支といった、国際金融論の基本的な概念や仕組みが解説されているが、これらは国際金融の諸問題をさらに深く学習するさいの基礎知識となるから、読み飛ばすことなく、たしかな理解をえておくことが必要である。第5～6章は国際金融の理論が中心だが、とくに為替レートの決定や国際収支調整の問題に焦点が置かれている。為替レートや国際収支をめぐる金融現象について、私たちがもつ直観のない常識的理解だけでなく理論的な視点を身につけることが大切である。また変動為替レート制への移行や資本取引の自由化といった歴史的な出来事が、国際金融理論の発展と深化にあたえた影響もあわせて考えていただきたい。

ページ 143～285

第7～9章は、国際通貨制度の発展を跡付けている。その変遷をふり返るだけでなく、時代固有のダイナミズムを理解することが必要であるし、各々の時代に国際通貨としての信認が何によって支えられてきたかも考えなければならない。国際金融市場を取り上げた第10章では、国際金融取引と国内金融取引の区別が難しくなった現実を理解し、グローバルな金融市場（とくにユーロ市場やオフショアセンター）の機能と特徴を把握することが必要である。第11～12章では、内外の金融市場の一体化が進むなかで、国際協調やBIS規制が登場した意味を考えること。また金融現象の世界化に伴い、通貨危機や金融危機も世界的に伝播するようになったが、それに対応する国際通貨制度はいかにあるべきかについて、著者ととも考えていただきたい。

■学習上の留意点

教材では現実の経済データや事例が豊富に盛り込まれているが、現実の経済は日々刻々と変化している。学習のさいには、参考文献・資料などを参考に最新のデータを確認すること。とくに国際収支統計については、発表形式（分類方法）そのものの大幅変更も予定されているので、今後の動向に注視する必要がある。

■参考文献

「国際収支統計季報」および「金融経済統計月報」（日本銀行）

BIS Quarterly Review (<http://www.bis.org/>)

IMF International Financial Statistics (<http://www.imfstatistics.org/imf/>)

統計データについては上記が参考になるが、それ以外は教材の各章末に文献リストを掲げてあるので、それらを参照していただきたい。

科目コード	科目名	単位数
0835	商業英語Ⅰ	2単位

教材コード 000190

教材名 商業英語Ⅰ

著者名等 石川 英夫

■教材の概要

役に立つ英語とは、決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切に、時々読みかえそう。やさしい表現が、英語学習では重要な働きをする。しかし、会話上手が全てではない。実直な、ドイツ弁も強味を發揮する。そして最も必要なことは、英語も人間が話し、聞き、読むものであり、その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

■学習計画のポイント

英語をビジネスに役立てるとしたら、ビジネス相手と心と心のつながりをしっかり結ぶには、どうしたらよいか。そこには双方向きのコミュニケーションが要請される。お互いに「信号」を出しあおう。ひんぱんに交信しよう。この姿勢を確立すれば、「商談」も「交渉」も必ずうまく行く。これは、英語に限らず、日本語を含む全ての言語にあてはまるものである。だから、英語を出来るだけ面白く、肩の力を抜いて勉強したい。「ストーリー」が面白く、楽しければ、自然に英語と親しくなり、覚えかつ自分の目的、目標のために使いたくなる。本講には、面白いはずの「ストーリー」をもりこんだ。

■学習上の留意点

率直に、面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果、教材が汚れ、きたなくなつて大いに結構。むしろそれが各々の勤勉、努力の証である。新品同様の、きれいな教材にしておかないように。

■参考文献

- ※『英語でビジネス交渉!』石川英夫著（研究社）電子版もあり
- 『英語力を上げる辞書120%活用術』住出勝則著（研究社）
- 『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科目名	単位数
0836	商業英語Ⅱ	2単位

教材コード 000191

教材名 商業英語Ⅱ

著者名等 石川 英夫

■教材の概要

役に立つ英語とは、決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切に、時々読みかえそう。やさしい表現が、英語学習では重要な働きをする。しかし、会話上手が全てではない。実直な、ドイツ弁も強味を發揮する。そして最も必要なことは、英語も人間が話し、聞き、読むものであり、その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

■学習計画のポイント

英語に通じ、英語を身につけると、面白いこと、エキサイティングなことが数限りなく起こる。自分の長年にわたる国際経験から、そのような例をとりあげてみた。英語を身につけると人生さえ変わる。いい方向に変わる。友人の輪が広がる。そこには、充実感や充足感がある。英語を通じて、楽しみや興奮や満足を感じ、新知識を吸収し、新体験を蓄積し、高度な人格形成を図れる。本講にもりこんだ例を精読して、いいところは大いに真似してもらいたい。自分ならもっとよく出来ると思ったら、どんどんやって欲しい。容易なことではないが、英語の学習の要諦は「真似ること」である。

■学習上の留意点

率直に、面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果、教材が汚れ、きたなくなつて大いに結構。むしろそれが各々の勤勉、努力の証である。新品同様の、きれいな教材にしておかないように。

■参考文献

- ※『英語でビジネス交渉!』石川英夫著（研究社）電子版もあり
- 『英語力を上げる辞書120%活用術』住出勝則著（研究社）
- 『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科目名	単位数
0841	経営学	4単位

教材コード 000497

教材名 経営学

著者名等 松本 芳男

■教材の概要

本書は、企業を経営したり、企業行動を理解するために不可欠な基礎的知識を提供することを意図して、企業経営に関わる諸原理・職能・問題をできる限り包括的に取り上げ考察している点に特徴がある。本書の学習を通じて、企業経営の個別的・断片的知識ではなく、企業の本質や指導原理・経営メカニズム、企業行動の問題点や改善策についてバランスのとれた洞察力を身につけることが肝要である。

■学習計画のポイント

第1部（1章～10章）

- ① 経営学の研究対象・学問的性格・歴史，企業・会社の本質と種類，企業集団や系列の意味・動向，企業における所有・支配・経営の関係，コーポレート・ガバナンスのあり方などについて学ぶ。
- ② 企業経営の目的・目標，経営戦略の意義・体系・論理，意思決定のメカニズム・タイプ，経営組織の諸形態と特徴，企業経営の主要職能とマネジメント機能などについて学ぶ。

第2部（11章～20章）

- ③ 企業経営の各主要職能について，マーケティングの基本的機能や情報技術との関わり，テイラリズム→フォーディズム→トヨタイズム→ポルビズムという生産システムの進化，雇用流動化と就業形態の多様化，動機づけとリーダーシップの理論，資本の調達・運用と財務分析などについて学ぶ。
- ④ 現代企業が直面する重要な経営課題・トピックスとして，日本型経営システムの特徴とその変容，中小企業やベンチャー企業の経営，企業経営のグローバリゼーションと異文化経営，労働者の経営参加，企業の社会的責任と企業倫理，企業評価モデルなどを学習する。

■学習上の留意点

企業は生きており時々刻々変化している。本書の学習を通じて企業経営に関する基礎的知識を習得するだけでなく、新聞や雑誌・参考文献などを通じて絶えず変化している企業社会の実態を知り、その意味を深く考察することが重要である。

■参考文献

- ※『ゼミナール現代企業入門』日本経済新聞社編（日本経済新聞社）
- ※『ビジネス・経営学辞典（新版）』二神恭一編著（中央経済社）

科目コード	科目名	単位数
0848	中小企業論	4単位

教材コード 000488

教材名 『現代中小企業の新機軸』

(学習指導書別冊)

著者名等 永山 利和

■教材の概要

中小企業問題は、市場経済の発展に従って時代によって異なった課題を持ちながら、常に市場経済の中心に位置してきた。今日経済のグローバル化の流れの中では世界市場を相手にする多国籍企業が主体のように見なされがちである。だが、建設、製造、商業・流通、サービスの各分野で「隠れた主役」を演ずるのが中小企業である。この教材は現代日本の中小企業の状況を多角的に研究した共同作業の結果である。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 70

中小企業動向を概観とし、その個別経営および経営組織の役割ならびに行政との連携を理解する

- ① 現代中小企業のマクロ的役割と経営の基本的存在意義
- ② 中小企業経営の意義を自己主張する中小企業（家）組織と運動および行政との連携

ページ 73 ～ 248

中小企業は地域性をもった事業活動体であり、国・地方の行政と政策連携の必要性を理解する

- ① グローバル経済下の中小企業のリージョナリズムを複眼的に捉える
- ② 産業集積，都市型中小企業，共同化による技術進化，地域経済社会における商業や建設業の役割
- ③ 中小企業基本法の基本課題や世界的にも中小企業憲章制定が行われる根拠
- ④ 産業集積，地域振興では地域中小企業が強い厚みを持つことが重要

ページ 251 ～ 303

中小企業の存在は、労働者の雇用と地域の人々の暮らしに深くかかわる。

- ① 金融がコミュニティのレベルで機能することが世界的にクローズアップされる理由
- ② 中小企業労働者の福利厚生や、小規模事業者の経営・生活実態と社会保障制度

■学習上の留意点

中小企業にも光と影がある。影の部分が解決不能な事態と考えられがちであるが、世界の経済史を通じてみると分かるように、中小企業発展の条件を探求することが国民経済、地域経済発展に大きな役割を演じてきた。中小企業政策こそ経済政策の基礎であるという命題を理解してほしい。

■参考文献

- 『産業構造転換と中小企業』吉田・森本・永山編（ミネルヴァ書房）
『現代中小企業の存立構造と動態』福島久一（新評論）
『世界経済史』中村勝己（講談社学術文庫）

科目コード	科目名	単位数
0851	会計学	4単位

教材コード 000482

教材名 会計学

著者名等 勝山 進・村井 秀樹・吉田 武史

■教材の概要

社会には営利を目的とした企業と営利を目的としない企業（組織）が存在するが、これら企業や組織の成果は、「財務諸表」という形で把握される。本講座（教材）は、前者の営利企業を対象として編集してある。

本教材は、全体を3部に分けてまとめている。第1部は、企業会計を学ぶに当たって理解しておかなければならない基礎やそれに係る必要事項を体系的にまとめている。第2部は、「財務諸表」の基本的な表である貸借対照表と損益計算書の作成方法やそこに含まれる具体的な項目についてまとめている。第3部は、「財務諸表」を作成する場合の具体的な個別の会計基準についてまとめている。要するに、第1部は第1章から第4章まで、第2部は第5章から第17章まで、第3部は第18章から第29章までである。

■学習計画のポイント

第1期

会計の基礎、会計の理論構造、企業会計制度、会計原則

第2期

貸借対照表の基礎および貸借対照表を構成する各項目

損益計算書の基礎および損益計算書を構成する各項目

第3期

連結会計、外貨換算会計、研究開発費会計、退職給付会計、キャッシュ・フロー会計、税効果会計、減損会計

第4期

国際会計、ストック・オプション会計、リース会計、資産除去債務会計、企業再編会計、包括利益会計

■学習上の留意点

財務会計を学習する際の最も重要なキーワードは、「適正な」期間損益計算であるが、近年は、この損益計算に加えて、利益観が「純資産の増加」という「資産負債アプローチ」が加味されていることに留意する必要がある。

■参考文献

『財務会計講義 [第13版]』桜井久勝（中央経済社）

『基礎財務会計 [第13版]』五十嵐邦正（森山書店）

科目コード	科目名	単位数
0854	簿記論Ⅰ	4単位

教材コード 000454

教材名 簿記論Ⅰ

著者名等 村井 秀樹

■教材の概要

テキストは、12章から構成されています。第1編は、簿記の基礎理論を中心としてまとめられています。章のタイトルを見ますと、第1章 簿記の概要、第2章 複式簿記の構造、第3章 複式簿記一巡の手続き、第4章 商品です。第2編では、具体的な簿記上の会計処理についてであり、第5章 現金・預金、第6章 売掛金と買掛金、第7章 有価証券、第8章 受取手形・支払手形、第9章 固定資産、第10章 伝票、第11章 決算、第12章 財務諸表の作成です。各章のはじめに、「学習のねらい」を付けており、また本文中での重要用語は太字にしています。

■学習計画のポイント

まず第1編のポイントは、簿記理論の概要をしっかりと把握するということです。取引を借方・貸方に仕訳し、精算表を作成するという技術的なことも大切ですが、その根拠となった考え方を学ぶことがより重要です。したがって、簿記の種類、複式簿記の特徴、簿記上の取引、複式簿記の構造、決算の意味・内容等を十分理解することが大事です。

第2編でのポイントは、第1編の簿記理論の概要を踏まえた上で、具体的かつより複雑な取引についてその簿記上の処理方法を学習することです。ここでは、実際に数多くの仕訳問題を解く必要があります。具体的な取引としては、現金取引、当座 預金取引、未収金等のその他の債権・債務取引、有価証券取引、手形取引、固定資産取引、伝票制度等です。これらに関わる仕訳を正確に理解した上で、決算整理の必要性を認識し、精算表の作成へと進みます。

■学習上の留意点

簿記の習得には、問題を数多く解く必要があります。本テキストは、練習問題を適宜設けており、受講生がテキストに直接書き込めるようにしております。しかし、本テキストの練習問題だけでは、十分な力がつきません。必ず、市販の練習問題集を購入して、より多くの問題を解いていただきたいと思います。

■参考文献

さらに簿記を学び、日商簿記検定試験3級、2級、1級、税理士、公認会計士等の資格試験にチャレンジされたい方は、比較的大きな書店の簿記のコーナーを見てください。実際に手に取り、最も自分のレベルに合ったテキストを選んで頂き、学習して下さい。

科目コード	科目名	単位数
0897	観光事業論	4単位

教材コード 000417

教材名 観光事業論

著者名等 佐藤 俊雄

■教材の概要

本書は、観光事業を新しい視点で学問的に体系づけようと試みたものである。どこが新しい視点かという点、一つは、観光という概念を、観光者が「何らかの光を観る・観たい行為」と観光関連事業者が観光者のこの欲求や期待に応えるために「何らかの光を魅せる活動」とを一体的に捉えた点である。もう一つは、したがって、従来の観光の概念にある観光者の脱生活場所、遠距離移動、脱日常性、非日常的事象との遭遇、そして元の場所に戻るという一連の行動やそれにもなう観光関連事業者の諸活動はおのずと観光の付随的現象であるとする点である。こういう視点に立つことによって新しい観光事業の本質を捉えることができる。つまり本書は、観光事業を、観光者の限らない欲求や期待に応え魅力をもたせ、観光者に光を通じて充実感や満足感を与えることを目的とした、目立たない裏方的な支援・代行業業であると位置づけ、その活動の諸過程を明示したものである。

■学習計画のポイント

ページ 1～108

観光事業の本質を知るために、まず、観光産業とのかかわりや位置づけを理解する。つぎに、観光事業が何のために必要か、その目的や役割について正確に把握する。

観光事業の実質的な活動プロセスの最初のスタートは、観光政策を立案することである。観光政策には大別して国際政策、国内政策、および地域政策があり、その主要な対象が、観光者、観光資源、観光（関連）施設、観光関連事業者、および地域住民を含む観光地の五つであることを認識する。

以上の基礎的知識を確認したうえで、観光事業の二つ目の活動プロセスとして、観光計画およびその立案方法を学ぶ。主要な観光計画の対象は観光地であり、計画の核心は、観光地の開発計画と保全計画とを同時に立案することである。その際、樹立した計画を具体的に事業化するために、資金計画も同時に立案することを学習する。

ページ 109～272

観光事業の活動プロセスの三つ目は、すでに樹立した観光政策や観光計画を実行するための組織づくりである。まず始めに、組織とは何かを学び、観光事業にかかわる組織には国家（政府）や地方自治体などの公的組織と民間企業や各種団体などの私的組織があることを確認し、それぞれに役割分担があることを学習する。つぎに、四つ目のプロセスとして観光地の開発と保全とは何かを正しく把握し、観光地開発・保全事業の実践的活動を学ぶ。

つぎに、観光事業組織を戦略的かつ持続的に運営するうえで重要な経営とマーケティングについて習得する。ここではとくに従来のマーケティング・ミックスの4Pとは異なる4Cで私的観光関連事業者のマーケティング活動のポイントをつかむ。五つ目は、いままで営んできた観光事業活動の効果を確認し評価することを試みる。そして最後に、観光事業に関する今後の主要な五つの課題について学習する。

■学習上の留意点

ここで学ぶ観光事業論は、一般的にいわれる「観光産業論」、 「観光研究」、あるいは「観光学」などという名のもとでの観光のための研究報告や理論とは異なり、限りなく処方的実践論である。実践的ではあるが、観光という分野はそれだけで総合的な意味をもち合わせているので、総合的な実践論である。したがって、本書を学習する際は、自らが広い視野に立つ観光事業者の一員である、あるいは将来観光事業に携わるつもりで、頭で知識だけを学ぶのではなく、からだで身になるものを得ることを心掛けることが肝要である。

■参考文献

通信教育教材で十分。あとは、教材内の各章末の引用文献および参考文献のなかから関心のある図書を抽出するとよい。

科目コード	科目名	単位数
0898	商業史	4単位

教材コード 000197

教材名 『日本商業史』

著者名等 藤田 貞一郎・宮本 又郎・長谷川 彰

■教材の概要

本書は、序「日本商業史の課題」、第Ⅰ部「近世商業の展開」、第Ⅱ部「江戸時代の商業」、第Ⅲ部「近代の商業」からなっている。

序は、この本書の内容の性格をのべている。第Ⅰ部は、近世（江戸時代）の時代をおって商業の展開をのべ、第Ⅱ部は、近世の商業の静態的側面、わけても商業慣行についてふれ、第Ⅲ部は、近代の商業の動態的側面を中心に叙述している。

■学習計画のポイント

ページ1～96

第Ⅰ部、近世商業の展開は、近世前期の商業と近世中・後期の商業からなる。前者は、1. 幕藩制と商業 2. 全国市場と藩領域市場の成立、3. 問屋制の成立 4. 近世前期の商業政策といった内容となっている。幕藩制のしくみと商業の役割について十分に理解することがもめられている。後者は、1. 商品の生産の進展と全国市場 2. 宝暦：天明期の流通機構と株仲間政策 3. 専売制の展開と中央市場 4. 株仲間の停止令と再興令 5. 開港と商品流通の変化といった内容となっている。商品生産の進展がやがては幕藩制的市場経路を崩壊させていく過程をよく理解することがもめられている。

ページ97～234

第Ⅱ部、江戸時代の商業では、商品取引経路と商業慣行、商人経営と商業組織、信用制度などに言及されており、商業活動の具体的な内容や、商業の発達にともないさまざまなタイプの商人が発生したこと、また取引技術の合理化がみられたことなどの理解がもめられている。

第Ⅲ部は、近代商業の社会経済環境、近代商業経営の成立、貿易と国内商業といった章を立てて近代商業の展開に言及している。

■学習上の留意点

特になし。

■参考文献

本書の各章末に貴重な研究書が多数掲載されているのでこれを利用するとよい。概論でテキスト刊行後のものとしては※『商業史概論』（有斐閣ブックス）武野要子編（有斐閣）があり、最も新しいものとして『新体系日本史12－流通経済史』桜井英治・中西聡編（山川出版社）がある。またヨーロッパの商業史に関心をもった方には『商業史』（有斐閣双書）石坂昭雄他著（有斐閣）の一読をすすめておきたい。